

**第6回わかやまリノベーションまちづくり構想検討委員会**

**これまでの委員会の発言について**

**和歌山市**

平成29年1月13日

### 第1回委員会の主な発言

- まちなかに体験型市民農園をつくり、緑のあるまちと農で楽しむまちを実現させてほしい。
- まちなかの駐車場を農地にし、収穫したものをまちなかの飲食店で食べられるようにしてはどうか。
- 空き家を埋めた後のことまで考え、労働力の流出を防ぐ取組をディスカッションする必要がある。
- つくると同時に、何を捨てるのかを考えていかなければならない。
- 学生を巻き込んで、面白い仕事を創り出し、まちなかで起業する仕組みを作るべき。
- 加太には、古い木造家屋や廃業した民宿等のストックがたくさんあり、まちなかにつないで考えていくべき。
- 和歌山大学の学生がまちなかに来て帰るための交通手段を考える必要がある。

### 第2回委員会の主な発言

- 和歌山大学生をまちなかへ送迎するナイトバス・ナイトタクシーを実現させたい。
- 加太の川沿いにある繊維工場を飲食店にするとよいのではないか。カフェや農業をする人たちと一緒に、建物、農地、港をつないで面で展開できるとよい。
- 南海電鉄のプロモーションにより、車が入ってこない路地の空き家の軒先でマーケットを開催してはどうか。
- その地域にある空き家を全部宿として使うのが、加太のまちに合うのではないか。
- 空き家の用途を変更する際、建築基準法を守りつつ、上手く活用できる仕組みの検討が必要。
- 和歌山電鉄、和歌山駅、市駅、加太を結ぶ電車を一本化できないか。
- 加太の一番美味しい魚介類は、加太でなければ食べられないようにすれば全国的なブランドになるのではないか。

### 第3回委員会の主な発言

- 既にあるカフェなどをフォトスポットにし、子どもと家族で写真が撮れるようにすれば、SNSを通じて和歌山のPRにもなる。
- 和歌山に駄菓子屋がない。駄菓子屋のおばちゃんに見守り代を渡し、夜まで開けてもらってはどうか。
- RICO、ヌメロ、水辺座、石窯ポポロの軒先で2時間くらい駄菓子屋を開くと、まちが変わる。
- 自然を通して五感を感じる体験を自然を楽しむ大人が子どもに教えるべき。
- お年寄りや一人暮らしの方が、子どもに昔の遊びや習字を教える活動などをすればよい。
- 同窓会に家族、子どもを連れて、地元の飲食店、海、カフェを巡り、親が育った場所を見せてはどうか。
- 和歌山は都会であり田舎であり、子育てもしやすい。世界にも開けているが、情報が整理・発信できていない。
- 子どもと高齢者の公園の使い方など、行政が分けすべき。

### 第4回委員会の主な発言

- まちなかには、子どもが遊ぶ場所や公園がない。
- 土地が余っているところには駐車場がたくさんある。
- 駐車場の利用権交換等により、民地のまま公共的に使える仕組みを、固定資産税の減免も含めて検討すべき。
- 使われていない駐車場を市役所職員が利用し、公共交通で通勤してはどうか。
- 不人気の駐車場を子どもアトリエにするのはどうか。
- まちなかに農地を作るとは子どもの教育にとって大切。
- まちなかの空き家や駐車場を農地に変えると、固定資産税を住宅用地並みにしてはどうか。
- 市民会館の屋上に農園を作ってはどうか。
- まちなかにきた学生、若者のライフスタイルやその仕掛けを、大学誘致とセットで考えるべき。

### 第5回委員会の主な発言

- ファンドと絡めることで、柔軟性のある金融支援策が作れないか。
- 和歌山は和歌山城から50メートル離れたら城下町の雰囲気がない。
- 新しい事業は融資を受けにくいですが、クラウドファンディングの活用により最初の資金が集められる。
- これからは、まずクラウドファンディングでお金集め、自己資金を増やし、地域金融機関からお金を借りるという形になるのではないかと。
- 地域を応援してもらうための資金を集めるためには、地域の魅力を高めることが必要である。
- 和歌山市民にはまちのために自分のお金を出すという市民性があり、リノベーションまちづくりを応援する人が多いのではないかと。
- 事業者を応援するのは本来ファイナンスである。個人が個人であることを応援することが大事である。